

未来につながる魅力あるまちづくりを目指して



# 竹原市・都市マス通信

Takehara City Planning Master Plan News



平成30年1月1日

第15号

発行：竹原市建設部都市整備課  
TEL 0846-22-7749



新年おめでとうございます。

昨年は、立地適正化計画など、まちづくりの推進に向けた様々な会議や、まちづくり意見交換会など、市民の皆様のご理解とご協力を頂き、心よりお礼を申し上げます。本年も皆様の益々のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

## 立地適正化計画 まちづくり意見交換会を開催しました

昨年秋、平成27年から取り組んでいる立地適正化計画の骨子案が整ったことから、市民の皆様と人口減少や高齢化などの社会問題に対応した将来のまちづくりについて共に考え、意見を交換するため、平成29年12月10日(日)から市内全域を対象に、5地区に分けて「まちづくり意見交換会」を開催いたしましたので、その一部をご紹介します。

ご来場いただいた皆様には、昨今の社会情勢における竹原市の課題や、今後のまちづくりの方向性について一定には共有頂けたのではないかと考えています。一方で、コンパクトなまちづくりを進めていくためには、長い時間をかけて取り組んでいく必要があることから、引き続き市民の皆様と意見を交換する場を設けていく必要があると考えています。

### ●出前講座をご活用ください！

コンパクトなまちづくりには、今回の意見交換会だけでなく、これからの市民の皆様と意見交換を続けていく必要があります。

そのため、竹原市に在住または通勤、通学している方で、自治会や組、班、サークルなどの団体またはグループ（政治、宗教、営利を目的とした集会は除きます。）がありましたら、「出前講座」として、市の職員が直接出向いて、意見交換会としてお話をさせていただきます。

お問い合わせは、市のホームページ、窓口、表題の連絡先まで遠慮なくお問い合わせください。



▲まちづくり意見交換会ポスター



▲大乘公民館



▲荘野公民館



▲忠海公民館

### パブリックコメントを予定しています。

竹原市立地適正化計画は、平成30年3月の計画策定を目指しています。今後、計画書のパブリックコメントなどを行う予定としております。日程等については、改めて広報や都市マス通信、ポスターなどでお知らせします。



## 平成29年12月10日～13日 まちづくり意見交換会の内容（一部抜粋要約）

（問）現在、市役所の各課が進めている施策等があるかと思いますが、現状のまちづくりに関するルールと、新しい計画のルールの違いを教えてください。



（事務局）基本的なルールについては変わるものではありません。この計画は将来の竹原市の人口規模を想定し、少しずつまちをコンパクトにしていくために、住み替えを考えられている方や、市外からの移住者等に利便性の高い地域に住んでいただくために、時間をかけて緩やかに導いていく内容を示したものです。

（問）コンパクトシティを推進するためには、誘導していく地域の魅力を高めていく必要があるかと思いますが、具体的な施策が少ないように感じます。空き家対策についても、市が清掃等を助成するなど、積極的な取組をしなければコンパクトシティの実現は難しいかと思います。

（事務局）ご指摘のとおり、一定の居住地域を維持するためには、その地域に魅力を感じていただく取り組みが必要と考えています。この計画は、人口が減少する時代においても持続可能なまちとなることを目指して、「コンパクト+ネットワークのまちづくり」という将来のまちづくりの方向性をお示しするものです。しかし、その実現には、居住や都市機能の誘導だけでなく、医療や福祉、教育など様々な分野と連携していく必要があります。今後、その実現に向けた様々な施策を展開していきたいと考えています。空き家については、まちづくり会社「いいね！たけはら」において、留守宅の空き家を管理する「空き家見守り隊」や、空き家再生事業などのサービスが提供されています。また、市では安全衛生上危険な空き家への対策や、住宅改修費を助成する制度などの検討を進めているところです。



（問）竹原地域以外の日常生活用品の商店は、個人商店が多く、将来維持していくことは難しいと思います。忠海地区は商店街がありますが、ほとんどが個人商店という状況かと思えますし、市として何らかの対策を講じて欲しいです。

（事務局）商業施設については、徒歩圏内など一定の範囲の商圈人口を基に、その規模に応じた商業施設の立地が見込めると考えております。そのためにも、居住誘導区域内へ居住を導き、人口密度を高めることで、まちの活気を生み出し、人口が減る中でも商圈人口を維持し、商業施設の維持につなげたいと考えています。

（問）ご説明いただいた計画は、行政としても初めての試みであり、理想的な状況だと思えますが、竹原市に馴染む計画なのか疑問に思えます。特に北部地域は山林に囲まれた地域であり、不便な地域でも過ごしやすい環境となるのか不安に感じます。コンパクトシティの考えでは、中心部に住む方の利便性が図られるということですが、北部地域に住む人は移転できる訳でもありません。公共交通にしても、現在の路線が継続できるのか不安に感じますし、車が運転できなくなったときの危機感も感じます。どこに住んでも、快適に過ごせるような環境づくりにも取り組んで欲しいと思います。

（事務局）コンパクトなまちづくりを進めていく上において、居住や都市機能をまちなかへ誘導し、活気ある市街地の形成を目指す一方で、郊外部には農業に従事する人の居住も必要であり、都市部と郊外部の連携した取り組みが重要であると考えています。そのためには、高齢化などで車を運転できなくても住んでいけるよう、日常生活の利便性や都市機能が整った拠点へのアクセスを将来的にも充実させることが必要と考えています。

また、北部地域については、田園地域等の生活習慣や地域性があり、様々な機能を集約するような都市部と同じような施策は馴染まないと考えています。田畑の真ん中にアパートが建つような無秩序な開発は抑制しながら、その地域の実態に合った土地利用に誘導していくことで、北部地域の特長や景観を活かしたまちづくりをしていく必要があると考えています。



▲吉名出張所 意見交換会ポスター